ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2024 資料④：省エネ設計手法・設備・快適性その他　Ver.1.1

|  |
| --- |
| この欄はプルダウンになっています。このページに記入する手法の区分を選択して下さい。 |
| ―――注記―――  （１）この枠内の書式は自由です。採用する手法の区分１）～７）ごとに4ページ以内（資料④全体では14ページ以内）で作成して下さい。  　　１）通風（自然風）利用のための設計手法・設備導入等  　　２）日射熱・蓄熱利用のための設計手法・設備導入等  　　３）日射遮蔽のための設計手法・設備導入等  　　４）蓄電・HEMSほか、計算プログラムで評価できない省エネ設備の導入  　　５）エンボディドカーボン、およびそのうちのアップフロントカーボン削減（※）のための取り組み  　　６）健康・快適性向上のための設計手法・設備導入等  　　７）その他、省エネ・健康・快適性向上のための取り組み  　１）～７）のすべてを網羅する必要はありません。採用している手法の区分のみを記載して下さい。  （２）**一般的な断熱材、窓、換気設備、暖冷房設備など、その効果が「エネルギー消費性能計算プログラム」に反映・評価されているものはここに記入する必要はありません。記入されていても評価対象とはなりません。**  （３）「エネルギー消費性能計算プログラム」で「通風を利用する」「蓄熱を利用する」「床下空間を経由して外気を導入する換気方式を利用する」を選択して計算している場合は、それらの内容に関する説明を記載して下さい。  （４）特定の物件のみで例外的に採用された手法ではなく、シリーズ全体あるいは企業として導入を図っている手法を記載して下さい。  （５）概念的な内容でなく、実際の導入案件の図面・写真等を挿入するなどしてできるだけ具体的な内容を記載して下さい。  （６）Wordのバージョンや設定の違い等によるレイアウトの乱れを防ぐため、**PDFファイルで提出して下さい。**また、**PDFファイルのサイズが10MBを超えない**ように、画像の解像度などを調整して下さい。  （７）配布されているこのファイルを使用せず、独自書式で作成した資料で応募してもかまいません。ただし、以下の条件を満たす資料として下さい。  ・用紙はA4サイズとする  ・採用する手法を区分１）～７）のいずれかに分け、それぞれ見出しを付けて内容を区切ったうえで各手法4ページ以内、資料全体で14ページ以内とする  ・PDFファイルで提出する。ファイルサイズは10MB以内。  （８）特段の記載すべき内容が無い場合にも、その旨を記載した上でこのファイルは提出して下さい。その場合に限り、Wordファイルのまま提出してかまいません。  （９）資料作成時にはこの注記部分は削除して下さい。  （※）エンボディドカーボン：建築物のライフサイクル全体を通じた二酸化炭素排出  アップフロントカーボン：製造・建設段階における二酸化炭素排出 |

|  |
| --- |
| この欄はプルダウンになっています。このページに記入する手法の区分を選択して下さい。 |
|  | |

|  |
| --- |
| この欄はプルダウンになっています。このページに記入する手法の区分を選択して下さい。 |
|  | |

|  |
| --- |
| この欄はプルダウンになっています。このページに記入する手法の区分を選択して下さい。 |
|  | |

※ページが不足する場合はコピーペースト等で追加して下さい。